

過去5ヶ年平均と比べ、「コシヒカリ」の出穂期は、2日程度早まりました。
水管理は、出穂後30日の落水期まで間断かんがいを徹底し、適期収穫に努めましょう。

表1 定点調査圃場における出穂期 出穂期とは、全体の半分程度の穂が出穂した時期です。

調査地点	品 種	田植日	出 穂 期		
			過去5ヶ年平均	今 年	平年比(日)
つくばみらい市中島	コシヒカリ	4/29 (5/1)	7/28	7/26	-2
つくば市今鹿島	コシヒカリ	4/30 (4/30)	7/27	7/26	-1
つくば市国松	コシヒカリ	5/2 (5/2)	7/29	7/26	-3
つくばみらい市長渡呂新田	ゆめひたち	5/8 (5/9)	8/5	7/30	-6

《 今後の管理 》

落水時期までは間断かんがいを行いましょう！

根腐れや根の活力低下の防止、高温による乳白米発生の軽減、登熟向上のために、落水期までは引き続き“間断かんがい”を実施しましょう。

(注) 常時湛水管理や、田面が乾くほどの強度の落水状態は、乳白米の発生を助長します。
また、乳白米は、出穂から15～20日の間の平均気温が27℃を超えると発生の危険が高まるとされています。

早期落水はしない！

落水時期は、早生品種で出穂後25日、中生品種(コシヒカリ等)は、出穂後30日頃を目安に落水しましょう。

(注) 早期落水は、根の機能が低下して千粒重低下や乳白米の発生による品質低下を助長します。

適期に収穫し、適正な乾燥調製を！

緑色を帯びた籾の割合(帯緑色籾率)が10～5%(1穂当たり8～10粒程度)の時期が収穫適期です。

コシヒカリでは出穂後約40日が目安ですが、表2を参考に成熟の程度を確認し、適期収穫に努めましょう。

また、胴割米の発生を防ぐためには、急激な高温乾燥は避け、“二段乾燥法(図2)”が有効とされています。

さらに、調製は1.85 μ m以上のふるい目を使用し、適正な流量で行いましょう。

図1 登熟期における間断かんがいの一例

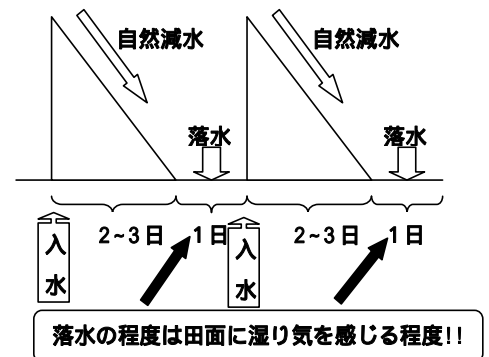


表2 収穫適期判定の目安

帯緑色籾率(%)	収穫適期
20	6～7日後
15	4～5日後
10～5	適 期
3	刈り遅れ

図2 二段乾燥法

